

令和6年度

こども学びスタ in 深谷

青少年健全育成深谷市民大会

中学生の主張をはじめ、

こどもたちの成長と挑戦を応援する
特別なステージを、ぜひ見届けてください

12/8 12時00分開演
SUN 8 (11時30分開場)

会場▶深谷市民文化会館 大ホール

作品集

主 催：深谷市・深谷市教育委員会・深谷市子どもサポート市民会議・深谷地方ユネスコ協会
お問い合わせ：深谷市こども青少年課 048-574-6646 深谷市教育委員会学校教育課 048-572-9578

目 次

プログラム 3

令和6年度「こども学びスタin深谷」について 4

「中学生の主張」 作品紹介・審査員紹介 5

■内田 夕喜 花園中学校 3年 陸上との出会い 6

■山口 和花 東京成徳大学深谷中学校 2年 マスク生活 8

■新 知佳 深谷中学校 3年 ファイナルゲーム 10

■草川 愛菜 南 中 学 校 3年 吹奏楽が気付かせてくれた最強の私... 12

■近藤 らむ 藤沢中学校 2年 リスペクトする心 14

■戸田 陸 上柴中学校 3年 「恵まれている」と感じられる人の務め... 16

■白石 瀬奈 幡羅中学校 3年 私の声 18

■山田 紗良 明戸中学校 3年 過去・現在・そして、未来へ 20

■針谷 花帆 豊里中学校 2年 世界中の人々へ 22

■尾島 莉優 岡部中学校 2年 私たちの輝く音色を 24

■村田 廉太郎 川本中学校 3年 「同調圧力」の力 26

中学生による英語弁論 作品紹介 28

■竹ノ谷 咲花子 南 中 学 校 2年 The Power of Smiling

子どもの暗唱 30

「栄一翁みらい宣言」作品紹介 31

「3つの運動」標語コンクール 作品紹介 41

「家庭の日」ポスターコンクール 作品紹介 44

プログラム

- 1 開会行事12:00~12:20
 - (1)開会のことば 深谷市子どもサポート市民会議副会長
 - (2)主催者あいさつ 深谷市長
 - (3)主催者あいさつ 深谷市教育委員会教育長
 - (4)主催者あいさつ 深谷市子どもサポート市民会議会長
 - (5)来賓あいさつ 深谷市議会議長
 - (6)来賓紹介
 - (7)主催者紹介
- 2 「中学生の主張」 発表12:25~13:35
- 3 中学生による英語弁論13:35~13:45
- 4 子どもの暗唱13:45~14:05
- 《休 憩》.....14:05~14:20
- 5 「栄一翁みらい宣言」表彰14:20~14:50
- 6 「3つの運動」標語コンクール 表彰14:50~14:55
- 7 「家庭の日」ポスターコンクール 表彰14:55~15:00
- 8 「中学生の主張」 表彰・講評15:00~15:30
- 9 閉会のことば 深谷地方ユネスコ協会会長15:30

司会

滝澤 愛海（埼玉県立本庄高等学校 1年）
令和5年度青少年健全育成深谷市民大会 「中学生の主張」 最優秀賞 受賞

令和6年度「こども学びスタin深谷」について

目 的

少子高齢化の進行や高度情報化、グローバル化の進展、価値観の多様化など、こどもを取り巻く環境は大きく変化しています。

深谷市では「第2次深谷市総合計画」を策定し、「健康でいきいきと暮らせるまち」や「次代を担う人と文化を育むまち」を目指しています。

また、地域とともに青少年を育成する体制整備に、市民、関係団体、教育機関と連携しながら、地域全体で青少年の健全育成を支援しています。

次代を担うこどもがたくましく、健やかに成長するためには、知恵・心・体をバランスよく、確実に身に付けることが大切です。そのため、郷土の偉人・渋沢栄一翁が大切にした立志と忠恕の精神のもと、幼児教育の充実、次代を担う人を育成するために必要な教育環境づくり、学校と家庭・地域が連携した地域の教育力の向上などにより、こどもが社会を生き抜く力を身に付けるための教育を推進しています。

「こども学びスタin深谷」は、「中学生の主張」の発表、中学生による英語弁論、子どもの暗唱、「栄一翁みらい宣言」の表彰、「3つの運動」標語コンクールの表彰、「家庭の日」ポスターコンクールの表彰など、こどもたちの学びの様子がよくわかり、こどもたちの成長を広く見渡せる事業であります。

この事業を通し、多くの地域の方や保護者に、深谷のこどものがんばりを見ていただき、学校、地域、家庭でこどもを認め励まし、総ぐるみで未来の深谷を担う自覚を持ったこどもを育てていくことをねらいとして実施しております。

中学生の主張

目 的

「中学生の主張」では、中学生が、日頃考えていることを論理的に整理し、作文にします。それと同時に、社会の動向について調べ、理解するきっかけとなることを目的としています。また、作文を多くの人の前で発表することで、自己表現のスキルを磨き、自身の能力の向上を図ります。

そして大人は、中学生の発表を通して、青少年がおかれている状況への理解を一層深め、青少年健全育成活動の推進に努めることを目的としています。

対象者

深谷市在住・在学の中学生

募集テーマ

日常生活において、普段から考え感じていること、チャレンジしていることなど、広く市民に訴えたいこと。

応募数

535点

賞

最優秀賞 1点 優秀賞 2点 優良賞 8点

「中学生の主張」審査員紹介（順不同・敬称略）

委員長	染谷 明信	深谷市教育委員会教育部次長兼学校教育課長
委員	山本 和憲	深谷市子どもサポート市民会議会長（深谷市自治会連合会 会長）
委員	鳥羽 正人	深谷市子どもサポート市民会議副会長（深谷市校長会 副会長）
委員	飯野 美枝子	深谷市子どもサポート市民会議副会長（青少年育成推進部会 部会長）
委員	新 智子	深谷市子どもサポート市民会議副会長（深谷市PTA連合会 会長）



陸上との出会い

うちだ ゆうき
花園中学校3年 内田 夕喜

3年生最後の学総県大会、とても苦しい時間でした。たくさん練習してきて、それなのに大会では練習でできていることができなくて、全く記録が出ませんでした。予選はなんとか2位通過で残った決勝、最初の1本目はやはり記録が伸びませんでした。ですが5投目に祈るような気持ちで投げた円盤はこの大会で1番の大きな放物線を描き、記録を伸ばすことができました。最後の6投目では記録は伸びませんでしたが、5投目の記録で県大会1位を取ることができたのです。本当に苦しい時間でしたが、今までの練習が無駄ではなかったと感じられた大会となりました。

最終的には、関東大会に出場し5位に入賞することができました。元々は円盤と砲丸の2種目で全国大会に出場することが私の目標でしたが記録が伸び悩んでしまい、円盤に絞り練習することにしました。そして、1つの種目の方でジュニアオリンピック全国大会出場を決めることができました。

このような結果が出せたのも、先生の協力や私を支えてくれた仲間がいたからです。一緒に練習メニューを考えていただいたり、家でのトレーニング方法を教えてくださったり、先生にはたくさん支えていただきました。生徒以上に部活に真剣な先生に逢えて幸せです。損得は考えず生徒のためにここまで気持ちを傾けることのできる先生は、私の最も尊敬する人の一人です。こんなに熱い先生は少ないと思います。本当に私は良い先生に巡り逢えたと思います。先生には感謝してもしきれないほど、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

後輩の存在にも救われました。同じ種目の先輩達が卒業して1人で練習することが多くなりモチベーションが下がっていま

したが、後輩と一緒に種目練習をするようになり、先生と2人でやっていた自主練習も一緒にやるようになって先輩達がいた時のように心身ともに部活に向き合えるようになりました。

部活がある日はもちろん、自主練習にも真剣に取り組みました。部活が休みの日にも学校に行ったり、高校に行ったりして練習しました。どんなに疲れていてもパフォーマンスには妥協せず一投一投集中して練習しました。

もちろん練習は楽しいことばかりではなく、辛いときもたくさんあります。大会になれば、うまく記録が伸びず、苦しい場面を経験したこともあります。しかし、どんな場面でも先生を信じ、自分を信じて、支えてくれた仲間の応援に応えるために、本気で投げ続けてきたからこそ、今の自分があると思っています。

私は陸上と出逢ったことで、本気になる大切さを感じることができました。人が本気で変わろうとするなら、今までの自分を超えて大きく成長することができるはずです。しかし本気を出すには、相当のエネルギーが必要になってきます。エネルギーを最大限に使うことができないと後悔してしまうことがあると、砲丸を諦めたときに身をもって体験しました。しかし努力し続けていれば、必ず良いことがあるということも体験しました。砲丸は諦めることにはなりましたが、その分円盤に全力を注ぐことで良い結果を出せました。当初の目標を達成するだけでなく、諦めずに努力し続ければ自分の納得する地点まで届きます。自分で自分の限界を決めてしまうと他の人に何を言われてもそれ以上前に進むことはできなくなると思います。諦めるなど悪い方向に進むのは、誰でもできてしまいます。ですが、自分が良い方向に進むこと、諦めずに本気で取り組むことは生半可な努力ではできません。今後の人生、壁にぶち当たる時が必ずくると思います。そんな時、挫けない気持ちを強く持ち、何事も諦めず本気で取り組んでいきたいと思っています。



マスク生活

やまぐち わか
東京成徳大学深谷中学校2年 山口 和花

取りたいのに、取りたくない。日々の生活の一部となった「マスク」。2019年12月初旬、中国の武漢市で初めて感染者が確認された「コロナ」。私が小学校3年生の時のことだ。

2019年12月25日、私は埼玉国際医療センター4階の病室で手術を終え、両親と術後回復を待っていた。その時には日本が、そして世界がこんな状態になるなんて思ってもいなかった。12月31日退院。その後、15日で4年間のマスク生活が始まった。今でも、両親はあと半月入院が遅くなっていたら、手術はできなかっただろうと言うことがある。

コロナ禍、私たちの生活に切っても切り離すことができなくなってしまった「マスク」。一時は入手困難で、どこで売っているのかさえわからず、「通信販売では入荷待ちになっている」と両親は話していることもあった。現在ではどこでも購入することができるというのに。

マスクによって人々の生活は感染から守られてきた。そして、私たちはそんなマスク生活に慣れてしまった。そのため、マスクを着けることが安心する材料となってきた。マスクを着けることが普通で、着けていないことがいけないかのような生活を送ってきた4年間。この4年で感染を防ぐためのマスクが、顔を隠すためのマスクになってきているように感じる。実は自分もその中の1人だ。なぜかマスクを着けていると安心する。それには顔を隠せるからだけではない理由があると思う。

小学校4、5、6年生の運動会は太陽が照り付ける中でもマスクをしている児童がほとんどだった。「熱中症対策としてマスクはできるだけ外しましょう」と6年生の運動会では放送があったが、外す子はほとんどいなかった。そのくらい、マスク

をすることが当たり前になっていた。みんなの楽しい顔は、マスクの下に隠れてしまい、目だけで表情を読み取り合っていた。友達と会話をしているときも「笑っているのかな」「怒っているのかな」といつも以上に相手に気を使うことが多くなったように感じる。そんな生活が4年も続くと、それが当たり前になってしまった。

小学校生活最後の卒業式。この日も全員マスクを着けていた。最後の校歌、別れの言葉、卒業証書授与、最後の最後まで友達の顔もマスクで隠れた。本当の顔はどんなだっただろう。そんな気持ちを残して小学校を卒業した。

2024年4月27日、「コロナ」がインフルエンザと同じ第五類に引き下げられた。マスクの着用は、3月13日以降原則として、個人の判断に委ねられることになった。文部科学省では学校ではマスク着用を求めないことを基本とすると決められた。

それでも、自分は慣れてしまったマスク生活をマスクなし生活に変えることはなかなか出来ないでいる。強制的なマスク着用の時間が長かったり、その事への呼びかけも激しかったりしたせいかもしれない。身につけてしまった習慣としてマスクをしていることが安心。それは感染防止だけではない。コロナのような非常事態の中で生きていかなければならない自分を支え、自分を守る手段として私はマスクをすることを選んだように思う。

夏休みに、定期検診で東京の大学病院へ行くことがあった。母は仕事の関係で、表情がよく見えるようにマスク生活を終わりにしていることもあって、マスクをしていなかった。「マスクをしてください」病院の受付の人に少し怒った口調で母は注意された。「すみません」母は慌ててマスクを取り出していた。マスクあり生活が、まだ続いているところもあることに改めて難しさを感じた。

医療関係者の中では、まだコロナは終わっていない。終わらせてはいけない。マスクあり生活、マスクなし生活。いつマスク生活をリセットするかは自分にも分からない課題だ。「マスクありき」で過ごさなければならなかった4年という長い時間を経て「マスク」の存在理由をもう一度じっくり考え直し、自分自身を見つめ直しながら、私は未来に向けて歩んでいきたい。



ファイナルゲーム

あたらし ともか
深谷中学校3年 新 知佳

「ファイト！」後輩たちの大きな声援が熊谷ドームのテニスコートに響きわたる。みんな私たちのペアの勝利を信じ心からの応援を届けてくれている。いよいよ最後の学総団体戦が始まった。私とペアはお互いを見てうなずく。そして私は、大きく深呼吸をして手の中のボールを握りしめた。

私がテニスと出会ったのは、小学4年生の時。ジュニアのテニスクラブに入ったことがきっかけだった。ジュニアの時はボールを打ち返せるようになるのが嬉しく毎週日曜日に友達とテニスができるのが素直に楽しかった。

中学生になり私は迷わずテニス部に入部した。ジュニアの経験者は私一人だった。そんな中入部2ヶ月で学総に団体の一員として出場できることになった。私は焦った。先輩たちのために、少しでも良い結果を出したいと臨んだが、団体戦1回戦敗退。先輩たちとの最後の試合はあっという間に終わってしまった。この試合は私の中で今のままでは勝つことはできない、どうすれば強くなれるのだろうと心から思えた貴重な経験だった。練習時間を増やし、休日午前中は部活動。午後は自主練とほぼ一日中テニスをするようになった。

2年生になると先輩方が自主練に参加してくださるようになった。部活動の仲間と一緒に練習してくれるようになって私はがぜんやる気が出てきた。夏は40℃近く気温が上がったり、急な雨にぬれたりしながらの練習も仲間と一緒にプレーすることで、自然と笑顔になれた。そんな私たちを見て、顧問の先生も本気で「県大会を目指そう！」とおっしゃってくださるようになり、チーム全体の活気が出て部活動は充実した時間になった。そんな中、2度目の学総を迎えた。先輩のために今度こそ

良い試合をしようと臨んだ。その結果は、個人戦ベスト16、団体戦は初戦敗退だった。目標としていた県大会には全く手が届かなかった。私は悔しくて、悔しくて、いつか絶対県大会に行ってやると心に誓った瞬間だった。

私は隣町のクラブチームと、男子テニス部のクラブチーム両方に入団して男子の中で練習をするようになった。男子の打つボールは速くて重くて集中しないと返球するのが難しい。女子の力で勝つには速さに対応する力と丁寧なコントロール力が必要になる。これはものすごく良い練習になった。私とペアは、毎週この男子との練習を重ねるうちに、だんだん試合でも勝つことが増えた。少しずつテニスがうまくなってきていると手ごたえを感じていた時、2年生の郡市大会が行われた。接戦の末、私たちペアはベスト8に入賞することができた。心の底から嬉しくて私のテニスを支えてくれた人たちに、本当に感謝の気持ちでいっぱいになった。最終選考で選ばれなかったため、県大会には行けなかったが、大きく県大会に近づいた時だった。しかし、私に残されたチャンスはあと1回。学総。ここで今まで5年間追いつけた夢の舞台に必ず行く！私は今まで以上に真剣に練習に打ちこんだ。そのような日々の中で後輩に自分が勝たないと団体戦では勝てないというプレッシャーから涙を流してくれる子がいた。他にも誰よりも朝早くきて球の準備をしてくれる子や、応援を人一倍してくれる子もいた。こんなにもいい後輩に支えられながらテニスができたことに心から感謝している。

ラストゲームが始まった。泣いても笑ってもこれで最後だと自分を奮い立たせる。1ポイント先取。仲間の声援がさらに大きく私の耳に、心に響く。「勝つ。」心の中でそうつぶやき、ペアとハイタッチをした。ありがとうペア。ありがとう部活の仲間たち。ありがとう私と共に戦ってくれた人たち。みんなの気持ちを一球一球に込め、全力でプレーした。みんなのお陰で成長できた。本当に感謝している。私はラケットを強く握りしめた。



吹奏楽が気付かせてくれた最強の私

くさかわ あいな
南中学校3年 草川 愛菜

「深谷市立南中学校 銅賞」

そう言われた瞬間、私の中の時計が止まった。7月31日、埼玉県吹奏楽コンクール北部支部大会。3年生にとっての、「銅賞」。それはまぎれもなく、中学校部活生活の終わりを告げる引退宣告である。「待つて。もっともっとみんなと演奏したい」。「終わり」の3文字がぐるぐる回る。

2年前、入学してすぐの部活動説明会。私にとって運命の出会いがあった。先輩方が演奏する姿の、なんと楽しそうなことか。楽器が様々なパートで音楽を支え、1つのハーモニーが創り上げられる。音楽の奥深さと、創造力に魅了され、ただただ驚き、圧倒された。同時に、今すぐ演奏したい。入部を決めるのに時間はいらなかった。そして私は吹奏楽部のフルート奏者の一員となった。

当初は、うまく吹くことができず、「こんなはずじゃなかった」と焦る毎日。それもそのはず、音楽を奏するには、一朝一夕では成しえないこと。音楽だけでなく、何かを成し遂げるには、地道な努力が必要。そんなことはわかっていたはずなのに、気持ちだけが先走る。そんな私を見た当時の3年生が「焦れば焦るほど前に進めないよ」「ゆっくり1つずつ基礎から練習しよう」と教えてくれた。それから、じっくり、理想の音を奏でることを目標に、地道な練習をコツコツ、とにかく、辛抱強く繰り返す。すると、できることがみるみる増えメロディを吹けるようになっていった。その時の何とも言えないわくわく感、昨日のことのように思い出す。

もし、フルートと、吹奏楽部と出会わなかったら、と考えるときがある。以前の私は常にネガティブで、「どうせ失敗す

る」「失敗するくらいなら挑戦なんてしないほうがいい」波風立てずに、平穏な毎日を過ごしていたと思う。失敗したら、傷つくのではないかと決めつけ、できないことや挑戦することを避けてきた。だから常に自信がなかった。「コンクールに出る1年生はオーディションで決まる」と言われたときも、選ばれなかったらと思うと、挑戦しても、練習しても無駄じゃないかと、心のどこかで思っていた。オーディションに合格した時、嬉しさ半面、先が不安でならなかった。そんな私に、「もっと自分に自信を持って。練習コツコツ頑張ったじゃん」同じ部活の仲間がくれた言葉。「自信を持つ」。ハッとさせられた。失敗を恐れるのではなく、自分の能力を信じて、毎日楽譜とにらめっこし、フルートを吹き続けること。それしかないんだ、それが自信につながるのだと。私が吹奏楽を通して、前向きに挑戦できるようになったきっかけの1つだ。

3年生になり、最後のコンクールに向けた練習が始まる。自分のパートをうまくできずに焦り、いら立っていた。「県大会に絶対出るんだ」と気負いすぎていたのかもしれない。そんな時、友達がくれたこの言葉。「焦るからできないんだよ。県大会目指しているのはみんなだよ」。自分のことに集中しすぎ、仲間のことを考えられずにいた。みんなそれぞれがきながら練習している。だからこそ1つに合わさった時のハーモニーに心が震えるんだと改めて気づいた。同じ目標を掲げ、共に苦しみ、支えあえる仲間が近くにいるだけで、心強く、もっと頑張れると。仲間の存在を感じながら合奏するととても手応えがあり、さらに自信となっていた。私たちは最強だ！そう自信をもって臨むことができたコンクール。だからこそ終わりたくなかった。

でも、後悔は1ミリも感じない。中学校の部活動は終わりを迎えたけれど、この先もっとたくさんの仲間と音楽に関わりたいと思う。そして様々な壁が待っているけれど、私には吹奏楽が教えてくれた「自信」と「仲間」がついている。吹奏楽が気付かせてくれた最強の私、「自信」と「仲間」を大切に築きながら、人生を突き進んでいきたい。



リスペクトする心

藤沢中学校2年 こんどう 近藤 らむ

「落として、落として。」

心の中で叫んでいた。その瞬間本当に落下しミスがおこった。関東への切符は2チーム。私達のチームは自己最高得点を出し、最後の1チームの演技を残して2位だった。このチームの結果次第で関東への道が分かれる。今まで、一度も勝てた事のない相手だったが、みんなで祈り、息をするのを忘れる程、じっと得点ボードを見つめていた。

「やったー。関東だ。」

誰かが叫んだと同時に、会場に大きな歓声が起こり、私達は人目も気にせず、喜び抱き合った。去年は0.4ポイント差で逃した関東大会への勝利を掴み取ったのだ。ふと、前を向いたら、ついさっき終わったチームが大泣きをして、ミスをした選手は、抱えられながら会場を出て行った。たった1つのミスが勝敗を分ける。0.4ポイント差の僅差だった。

「おめでとう。でも喜びは嘯み締めよう。勝者の裏には敗者がいる。貴方達は、みんなの思いを背負って次の大会に臨むのだから。」

コーチが私達の元に来た時、最初に言った。私は相手のミスを願ってしまった。「スポーツマンシップにのっとり」という言葉の意味は……。自分が全力を尽くす事は勿論だが、相手への敬意と尊敬を忘れてはいけないという事だ。自分を高めるためには、競い合う相手が必要だ。戦う相手は共に高め合える仲間でもある。リスペクトする気持ちが大切なのだ。

新体操は、5人で2分半の曲を演技する。このたった2分半をミスなく完璧に演技する為に、何度も何度も繰り返し練習している。1人のミスは連帯責任。1人でも欠けたらその日の練習が止まってしまう。一度、大会数日前に1人がインフルエン

ザにかかり、その後全員が感染し、大会を辞退した事がある。

「らむちゃんは夏でもマスクして変だよ。」

同級生にそう言われた時は、反論したい気持ちもあったがぐっと耐えた。伝えたところで、何も知らない第三者にはわからないと思った。

今年、パリオリンピックが開催され、ニュースで毎日のように、金・銀・銅の数が表示された。メダルを取った選手はテレビに引っ張りだこだ。3位になれば「おめでとう。汗と涙の銅メダル」4位になれば「メダル逃す。〇〇選手大号泣」などの見出しになる。そして、おかしな事に逃した選手のほとんどが、

「メダルを取れなくてすみません。」

と言わなければならない空気だ。特に今年はメダルを逃した選手へのSNSでの誹謗中傷のコメントが問題視された。

「日本の恥だ！引退しろ！」

匿名をいいことに、言いたい放題言い続ける人達は、全てを懸けて戦う選手達の何を知っているのだろう。メダルを取る為に色々な事を我慢し、犠牲にし、涙を流し、汗を流し挑戦し続けて、それでも届かなかった人に対し、なぜ責任を追究するような事を第三者が言うのか。一番悔しい思いをしているのは選手自身だ。自分が関わった事のあるスポーツであればある程、日本代表になる事がどれだけ凄い事か、ましてやメダルなんて、異次元な事だとわかる。否定的なコメントをする前に一度自分でもその競技をやってみれば、メダルを取っても取らなくても「お疲れ様」「ありがとう」の言葉以外見つからないはずだ。日本全体で盛り上がるのはいい事だと思う。でも、だったら、応援する側も「スポーツマンシップ」の心を持たなくてはいけない。私も新体操の大会での体験を通して、スポーツマンシップの心についてより深く考えるようになった。非常識なことをしても誰もよい気持ちにならないということを身に染みて感じた。

応援は力になる。私自身、何度も挫折しそうになったが、支えてくれた家族や友人、仲間達に励まされ、今まで頑張る事が出来た。例えばスポーツを辞めたとしても、リスペクトする気持ちを学べた事は、これから先の社会生活でも決して無駄ではない。私は大人になっても、何かに必死になり、夢中になって、成功したら喜び、失敗したら悔しくて泣ける、そんな人になりたい。



「恵まれている」と感じられる人の務め

とだ りく
上柴中学校3年 戸田 陸

「あなたは恵まれていますか？」そんな質問をされたら、皆さんはどう答えますか？私はこれまでそんなことを考えたことはありませんでした。戸田家の次男として生まれて14年、保育園、小学校、中学校と何不自由ない暮らしをしてきました。特に小学校に入学してから人との交流が増え、現在までよい友人にも出会え、中学生になってからは同級生はもちろん、先輩後輩にも恵まれたと思います。私が困ったことと言えば、幼い頃から「ポケモン」や「妖怪ウォッチ」などのアニメを見ずに、「男はつらいよ」や「釣りバカ日誌」など少し古い映画を見て育ってしまったせいで、友達と話が合わないことがあったくらいです。こうしたことは「当たり前」とは思っても、「恵まれているのか？」なんて感じることも考えることもありませんでした。

そんな私が、最近あることをきっかけに、この質問の答えを考えるようになりました。そのきっかけとは、社会科の授業で子供の貧困を訴える動画を見たことです。動画には、弟妹たちを養うため親の代わりに出稼ぎに行かなくてはならない、私よりも幼い子供たちが登場します。当然、学校に通うことはできません。そんな子供たちが将来の夢について尋ねられ、「生きること」と答える場面を見て、私は衝撃を受けました。私にとって「生きること」は「当たり前」のことで、夢とはその上に成し遂げるものだと考えていたからです。

私の家族は、現代の日本では珍しくなった三世代世帯です。しかも、両親は飲食系の仕事を、祖父母は呉服屋を営んでいます。携わっている仕事や年齢層が広いので、家族がそろう時間は多くありません。そんな私の家族内の関係を良好に保つためには、夕飯など家族がそろう時間がとても貴重だと思います。

そこで家族の中心にあるのが、父の作る料理です。

私には料理人になるという夢があります。この夢をもつようになった一番の理由は、父の存在です。私は幼い頃から父の作るご飯が大好きでした。父は、「どんなに疲れていても家族に喜んで食べてもらえる料理を作りたい」と言います。また、以前父の手伝いをしているときに「料理において1つの工程でもめんどくさがってはいけない。面倒でもひと工夫することで食べる人が喜んでくれるなら、決してそのひと手間を惜しんではいけない」と言われたことがあります。私は、そんな父の人間性に憧れました。父の料理を喜んで食べる自分を振り返り家族の姿を見て、私も食べる人を喜ばせられる料理を作りたいと思うようになりました。父だけでなくバラエティに富んだ家族の中で育ってきたことで、私はいろいろな考え方にふれ、それぞれを尊重する姿勢も身に付けることができたと思います。

私は、社会科の授業で見た動画に登場する子供たちの姿や言葉から浮かんだ「私は恵まれているのか？」という疑問を通して、私の身の周りや私自身について見つめ直すことができました。動画の中の子供たちは、「貧困」の中で大変な生活をしていました。しかしその中で、私が「当たり前」と考えていた「生きること」を夢みて懸命に生きていました。改めて見つめ直してみれば、私の周りにも、家族を助けるため、今を生き抜くために奮闘している人たちがいることに気づきます。少し余裕のある人たちには「当たり前」のようなことを夢みて懸命に生きている人たちがいます。私たちが見過ごしている、もしかしたら見ようとしてこなかった「当たり前」のことを、もっと多くの人たちにとっての「当たり前」にすることはできないのでしょうか。そしてそのためにできることはないのでしょうか？私たちはそうしたことをめんどくさがらずにひと工夫し、ひと手間を惜しまないようにしていきましょう。それが「恵まれている」と感じられる人の務めなのではないでしょうか。



私の声

しらいし せな
幡羅中学校3年 白石 瀬奈

「あなたの声は本当によく通るね！」この言葉を色々な方に言われてきました。小さい頃は、それを少し気恥ずかしく思うこともありましたが、いつしか声が私の武器となっていました。そのきっかけとなったのが、小学校1年生から始めたソフトボールです。父と母がソフトボールをしていたのもあり、私も興味を持つようになりました。「練習に行ってみよう！」と決意したものの、いざグラウンドに着くと、知らない環境、知らない人達にドキドキしてしまいました。そんな私に同級生の子が「一緒にやろう」と声をかけてくれてソフトボールを始めたことを今でも鮮明に覚えています。

父が野球好きなこともあり、私は小さい頃からプロ野球を観に行っていました。ソフトボールを始めたばかりの頃は、野球とソフトボールの区別がつかず、私は自分が野球をしているのだと勘違いをしていました。しかし、ソフトボールを知れば知るほどソフトボールの奥深さ、野球とは一味違うスピード感を体感し、もっと追求したいと思うようになりました。その中で、自分がチームのために活かせるものは何かと考えると、やはり、「声」でした。声にもたくさんの種類があります。盛り上げる声、励ます声、高め合う声、そしてゲームを左右する声。どれもチームのために必要な声だと思っています。

しかし、時には、プレッシャーや心の弱さで「声」が押しつぶされそうになることもありましたが、もがいても、もがいても上手くいかず、いつその事、逃げてしまった方が楽なのではないかとまで考えました。そんな暗闇の中、救い出してくれたのは仲間の「声」でした。この出来事で、「声」は人を助ける事も出来ると知りました。

私の「声」も誰かの役に立てるのではないかと思います、学校では2年間生徒会に所属してきました。生徒主体の学校を創るため、どんなに小さな声も聞き逃さないことを目標に取り組んできました。声を発するだけでなく、聞くことの大切さも重視しました。最終学年では生徒会長として学級委員や専門委員会と協力し、色々な角度からの意見やアイデアを聞いてきました。

生徒会は生徒会役員だけのものではありません。生徒一人一人が自らの意思で創り上げるべきだと伝えてきました。すると、1人の生徒が『学年関係なく、もっと友達を作りたい』と声を上げてくれました。

新型コロナウイルスの影響で学年を越えた交流が減っていましたが、緩和されてきた今、生徒会が指揮を取り、学年の枠に囚われない楽しむ行事を企画する事になりました。何をしたら全員が楽しめるゲームが出来るのか、朝早くから集まったり、休み時間を使って話し合ったりを重ねました。

交流会当日、初めは不安と緊張がありましたが、学校全体が盛り上がり、絆が深まったと思います。みんなの『楽しかった！』『新しい友達が出来た！』という声を聞いて胸が熱くなりました。そして、何より私の呼びかけの声に耳を傾けてくれて、勇気を持って声に出して伝えてくれた生徒がいてくれた事、本当に嬉しかったです。

私は、この「声」を活かし、報道アナウンサーになりたいという夢があります。

自分の目で見て、肌で感じたことを正確に言葉で伝えられるようになりたいと思っています。

中学校生活も残りわずかになりました。ソフトボールも生徒会も後輩に引き継ぐ時期です。自分達が引き継いできたものをしっかり伝え、次の代がもっと飛躍できるよう応援しています。そして、高校でも、私はソフトボールを続けます。小学校、中学校で学んできた事を活かし、夢を叶えるため、自分の武器をさらに磨いていきます。



過去・現在・そして、未来へ

やまだ さら
明戸中学校3年 山田 紗良

人は誰でも、「あの頃に帰ってやり直したい」と考えることがあるのではないのでしょうか。みなさんはどうですか？私は最近、そんなことを考えてしまうことがありました。「なんの悩みもないあの頃はよかった。」「帰ってやり直したい。」そんな言葉を周囲の友達からも聞くことが増えました。私たちは今中学3年生。つまり、受験生になったということです。

私たちは、中学校卒業後のことを真剣に考えなければならない時期を迎えました。テストの結果に一喜一憂し、行きたい高校に受からなかったらどうしよう、と不安を感じています。毎日が過ぎるのがとても速くて、時間が足りないと感じる日々が続いています。

過去を振り返れば、たくさんの楽しい思い出が蘇ります。青桐祭や体育祭に、みんなで燃えて頑張ったこと、悩みなど何もなく、楽しく過ごした小学校の夏休み。そして、そんな楽しいことと同時に、学校で叱られたこと、ささいなことで友達とけんかしてしまったこと、テスト前にダラダラ過ごしたこと。あの時あすればよかった、今でも後悔している、そんなことも蘇ってきます。あのときに戻れば、先生に叱られる前にちゃんと行動できるし、友達とけんかする前に思いやりの心で接することもできるでしょう。過去に戻れば、亡くなったおじいちゃんに会って、たくさん話せなかったおしゃべりだってできます。勉強だってもっと時間を大切に、集中してやれば、成績も伸びたはずです。

頭と心がグルグルしてしまった私は、家族にこの話をしてみました。今の時代は、物価が上がったり、悪質な犯罪が起きたり、環境破壊が起きたりと、生活しづらいことがたくさんあり

ます。だから私は、両親も、のどかで暮らしやすかった昔のほうがよかった、と感じているんだろうなと思っていました。しかし、私の想像とは全く違う言葉が返ってきました。「いや、戻りたいとは思わないなあ、楽しかったことや辛かったこと、今でも後悔してることだってあるよ。だけど、過去があるから今の自分があるんだよ。いいことも悪いことも、今の自分を作ってるんじゃないの。」その言葉を聞いて私は、はっとしました。そして、気づかされました。15年間の毎日の積み重ねが今の私を作っているのだと。私は、もう一度、自分の過去を振り返ってみました。あの時の失敗で成長できたことがあります。今でも残る後悔は、これからの自分に役立つはずです。友達とのけんかだって、私の中の思いやりの心を育ててくれたにちがいありません。楽しかったこと、本気で頑張ったことは、今の私を元気づけてくれます。もちろん、今の自分に満足できないし、納得もできません。しかし、今の自分は、まさに今まで自分自身の力で作り上げてきた自分の姿なのです。

今まで、自分の都合のいいように「あの頃に帰りたい」「もう一度やり直したい」と言っていたけれど、それは単に、今の自分から逃げていただけだったのです。今の自分に自信がもてず、そんな自分を認めたくなくて、やり直せば、もっとすばらしい自分になれるんだ、と言い訳をしていたのだと思います。それでは自分がかawaiiそうすぎます。自分には自分の良さがあり、今はまだ、たった15年の人生ですが、今までの毎日は、かけがえのない大切なもので、今の自分を作りあげているものです。これからまた、失敗することだってあるし、後悔することだってあるでしょう。なんで自分だけがこんな思いをしなくちゃいけないの、と落ち込むことだってあるはずです。しかし、そんなときこそ、自分を一歩高めて成長できるのだと思います。今までだって、そうやって私は成長してきたのです。これからの自分を作っていくために、今しかできないことがあると思います。自分に自信をもって、一日一日のすべてを自分の糧にしていきたいです。まずは、勉強から逃げずに努力して進路希望を実現させて、次のステップへ一歩を踏み出したいです。



世界中の人々へ

はりがや かほ
豊里中学校2年 針谷 花帆

「支えてくれてありがとう」そんな言葉を家族や友達、先生などに伝えたことはありますか。私の周りには、大切な家族や友達、先生がいます。みなさんにも、きっとみなさんを支えてくれている人がたくさんいると思います。いないと思っていても、私たちを支えてくれている人達は、見えないところにも沢山いるのです。

小さい頃は、自分が人に支えてもらっていることに気づきませんでした。何でも、一人でできているような気がしていました。だけれど、今は、たくさんの人に支えてもらっていて不安になることもあります。私ที่บ้านで勉強するとき、料理をするとき、どこか知らない場所に出かけたとき、自分だけじゃできないことはたくさんあって、もしかしたら自分にできることは少ないのかな、と思ったりもします。人間誰も一人でできることなんて実は限られているのかなと思うようになりました。人は生まれるときから人生を終えるまで、誰かに支えられて、助けられて、迷惑をかけて、自分も誰かの支えとなって生きているんだと気づきました。

そんなことを考えていると、私は人に支えられている瞬間を氣にするようになりました。私は、以前、勉強や部活動のことで行き詰まってしまったことがあります。そんなときに家族が掛けてくれた「大丈夫！」という言葉にとっても心が救われました。この言葉には、私を心配する気持ちと、私ならできる！という気持ちが込められていて、いつも私を見守り、支えてくれる家族の優しさと温かさを知りました。部活動でも、自分がたくさん失敗しても応援してくれる仲間がいて、何度も何度も粘り強く教えてくれるコーチがいます。そんなたくさんの

「声」に助けてもらいながら、私は今も部活動に取り組んでいます。人を支えるのは人の行動だけでなく、心のこもった「言葉」も入っているんだと思いました。支えてもらうことは、不安なことなんかじゃなくて、嬉しくて、楽しいことだとわかりました。

私たちの力となってくれているのは、近くにいる人たちだけではありません。世界中の誰かが行動したことや発言したこと、どんなに小さいことでも、その波紋が広がり、私たちに届くときには大きな力となっていることがたくさんあります。どこかの誰かがした、小さな行動、少しの言葉が、どこかの誰かに繋がっていき世界を支えているんだと思いました。特に今は、SNSなどの普及によって世界中どこにいても自分の考えや思いを発信できるのも大きいなと思います。

見たことも聞いたこともない人たちが、私の人生や私の周りにいる人を支えていて、私は何もしていないと思っていても、私を助けてくれている人たちと同じように、見たことも聞いたこともない人を、どこかできっと支えている。「支え合い」とはそういうことなのではと思いました。そんなふうに、誰かのためになれるように、行動一つ一つを意識しながら生活し、自分がしてもらったように、私も誰かの力になりたいと思いました。

一人一人が支え合っている社会で私は生きていて、そのことは、不安なことでも、だめなことでもなく、楽しくて、嬉しくて、優しいことなのだと思います。そんな世界で、私は幸せに生きている。それは、私の周りにいる人や、世界中のすべての人のおかげです。だから私は、世界中のすべての人に伝えたいです。「支えてくれてありがとう」



私たちの輝く音色を

おしま りゆ
岡部中学校2年 尾島 莉優

みなさんはキラキラ輝く演奏を聞いたことがありますか？

私は1年生の頃、部活動紹介で吹奏楽部のキラキラした演奏を聴き、私もこのような演奏がしたいと思い、吹奏楽部に入部しました。私の担当は、パーカッション。先輩たちのようにキラキラした演奏ができるのか、とワクワクしていました。でも、実際は思っていた何倍も難しく、基礎である叩き方もままならない程でした。それでも、先輩たちのようなキラキラした演奏がしたいと思った私はパート内での基礎練習、みんなで行う基礎合奏を頑張ろうと決意しました。

その頃、3年生の先輩たちは夏のコンクールに向けて練習をしていました。3年生にとっての中学生最後の演奏。それに向けて本気で取り組んでいる先輩たちの背中を見て、私も先輩みたいな演奏がしたいと思いました。1年生が基礎合奏をできるようになってきた頃、先輩たちのコンクールは間近となっていました。お世話になった先輩の最後の晴れ舞台。私は裏方として、精一杯サポートしようと思いました。

当日、北部地区のすべての吹奏楽部が集まったコンクール。引退をかけたコンクールだからこそ、会場の雰囲気は緊張に包まれていました。そんな中始まった先輩たちの演奏。今まで練習してきたものをすべて出し切り、一番の演奏をした先輩たちは、キラキラ輝いて見えました。

夏のコンクールが終わり、私はより一層練習に取り組みました。月日が経ち、初めて人前で演奏をしたニューイヤーコンサート。初めて誰かに聞いてもらうという緊張感からか、いつも練習ではできたところで手が止まり、これが人前で演奏することかと実感しました。

2年生になり、いよいよ私もコンクールに出る番になりました。先輩たちが輝いていたあのコンクール。今年は私もあのステージに立てる。うれしい気持ちがある中反面、人前で演奏することに対する緊張感がありました。去年とは違い、自身の練習の他に、後輩にも教え、先輩のサポートもし、暑い夏の練習を乗り越えてきました。

コンクール当日は思っていたより早く来ました。緊張し気づかないうちに口数が減っていた私に、先輩たちは場を盛り上げ、緊張をほぐしてくれました。先輩たち自身も緊張してはいたはずなのに、後輩を気遣ってくれる優しさを感じました。その時の演奏は、ミスもあったけれど今までで一番いい演奏でした。演奏を通して、私は先輩たちがあんなにキラキラした演奏をしていた理由は、それまで積み上げてきた“努力”と“信頼”だということに気づきました。コンクールが終わり、演奏をやり切った達成感と先輩の引退の悲しさで涙が止まりませんでした。

それからは2年生主体の部活になりました。私は、“セクションリーダー兼パートリーダー”になりました。私は、パートリーダーとしてみんなをまとめる大変さ、責任感を感じました。

私がパートリーダーになった今、頑張りたいことは2つあります。

1つめは、活気の溢れるパートにすることです。パートリーダーになりより先輩達の大変さがわかりました。3年生がいた頃のように活気あふれるパートにするため、プラス思考でパートをまとめていきたいです。

2つめは私の技術を高めることです。3年生達はすごく演奏が上手でした。それを受け継ぎたいです。技術を高めるために努力をし、先輩のように、パートの人たちがついていきたい、と思ってもらえるような人になりたいです。

今ある課題を乗り越え、私たちにしか出せない岡部中学校吹奏楽部の音色を作り上げていき、最後のコンクールでは部員全員で心を1つにし、誰かの心に残る演奏をしたいです。私たちの輝く音色を信じて。



「同調圧力」の力

川本中学校3年 むらた れんたろう 村田 廉太郎

例えば学校の授業で「この問題がわかる人は挙手してください」と先生が質問した場合、教室はどうなるでしょうか。きっと、教室はシーンと静まり返るでしょう。中には、先生と目を合わせないように視線を下げたり、一生懸命教科書を読むふりをしたりする生徒もいると思います。

では、本当に全員がこの問題がわからないのでしょうか。そんなことはありません。先生が気を利かせて分かりそうな生徒を当ててみると、きちんと回答することができます。当てられなかった人の中にも正解を知っていた人は少なからずいるはずです。

このような反応は授業中だけではありません。委員会の仕事や、行事に取り組む際にもアイディアが出しにくく、話し合いが進まないことがあります。「自分が言わなくても誰かが意見を出してくれる。」「誰かの意見に合わせればいいや。」と私自身もつい周りのみんなに合わせてしまいます。私だけでなく、みんなが同じように合わせてしまうと、良い意見が埋もれてしまいとても残念です。アメリカや中国などでは、自分の意見はしっかり伝える、他人と意見をぶつけ合うという傾向が多いと聞いたことがあります。他人に合わせるとするのは日本人の特徴だと言えるでしょう。日本人は「同調圧力」が強いのです。ではなぜ、日本は海外と違って、同調圧力が強いのでしょうか。

日本は山などで交通の便が悪く、村ごとに自治をするようになり、団体意識が芽生えた結果、世間体や他人の目を気にする文化が定着し、同調圧力が強くなったそうです。そしてその影響は、「空気を読む」ことや連帯責任など、現代の日本にも強

く根付いています。「同調圧力」と聞くとマイナスのイメージが大きいです。私はこの同調する力は侮れないと思います。この力をうまく活かすことができれば、私たちにとって良い影響を与えてくれるものになるはずです。

私は以前、夏休みに受験勉強のやる気が出なかった時がありました。その時に、周りの友達たちは自習を何時間もやっていて、なんとなく居心地の悪さを感じました。そして、「周りの子がやっているからやらなければ」と思い、机に向かってみた結果、成果が出た、という経験があります。他にも、学年委員として学年の課題を解決するために、さまざまな取り組みを行ってきました。その結果、一体感が生まれて、それが原動力となり、課題を解決できたことが度々ありました。後ろ向きな気持ちを抱えている時に、同調圧力があつたことによってきっかけができることもあるのです。

今現在、「同調圧力」に抵抗があり、集団社会に馴染めない人達が増えています。チームとして行動する日本の考え方も強力なものだと言うことも忘れないでください。同調することで「個」ではなく「チーム」として動け、個人ではできないようなことができます。そしてそれが集団の力を高めることになり、結果として中にいる個々の力も高められます。もちろん、自分の考えを主張することも大事なことで、一概に周りに合わせるのが良いとは言えないですが、同調圧力があるからこそ、みんなを巻き込んで良い方向に持っていけると私は思っています。案外、私たちは同調圧力に助けられているかもしれません。

私たちは今受験生という立場になり、一人では抱えきれないような悩みも増えてきました。そんな中「受験生は団体戦」という言葉を常に胸の中に置き、みんなで頑張っています。逃げられる場所がないことは苦しい時もありますが、同調圧力という力によって、自分の弱さに負けずに最後まで頑張ることができるはずです。



中学生による英語弁論

The Power of Smiling

南中学校2年 たけのや さくらこ
竹ノ谷 咲花子

Today, I want to share the amazing power of smiling with you. When we smile, we often do not realize how powerful it is. Smiling is not just an expression of happiness that makes us laugh—it can transform our lives and the world around us.

For centuries, people have recognized the positive impact of smiling and being kind to one another. In times of hardship and conflict, a simple smile can go a long way in making the world a better place.

Smiling offers various positive benefits for our body and mind, too. It can improve our health, mood, and even the emotions of others. Did you know that when we smile, our brains release powerful hormones that flood us with happiness? The act of smiling can also lift our mood by stimulating the muscles in our faces. Smiling can make us think more positively. So, if you have a problem, try to smile, and you will feel more confident about finding a solution. Smiling is also contagious. When we smile, we can make others smile, creating a positive ripple effect that spreads happiness to those around us.

Smiling is also universal. Even when you go abroad and interact with foreigners, you may not understand each other. But if you smile, you can still communicate with locals in some way. I recently visited Nepal for the first time. I was somewhat concerned about not speaking the native language. However, the country's beautiful nature and the warm smiles of the Nepalese people helped me overcome my worries. Even though I could hardly speak a word of Nepali, I experienced the amazing power of smiling and connecting with others during my stay there.

Smiling is beneficial because it reduces stress and improves the immune system. It also lowers the risk of certain diseases, such as depression and cancer. When we smile, our body makes chemicals that can help reduce pain. Smiling makes us feel good and can be helpful when we are feeling uncomfortable or upset. When you are stressed, try smiling even if it's not real—it will make you feel better.

One of the most powerful examples of the impact of a smile comes from my great-grandmother. She lived to 102 years old but was bedridden for many of her later years. She had trouble hearing and speaking. Despite her old age and physical challenges, she always greeted me with a big smile. She had that remarkable ability to brighten her entire care home. Her simple gesture of kindness proved that smiles are indeed magical.

By sharing smiles and kindness, we can make the world a better and more joyful place.

Remember that smiling helps us through hard times, spreads joy, and connects us with others. So, let's make a commitment to smile every day and share this incredible gift with as many people as possible. Together, let's be the reason someone smiles today.

中学生による英語弁論 日本語訳

笑顔の力

今日は、笑顔の驚くべき力についてお話ししたいと思います。私たちは笑顔を手かべるとき、その力に気づいていないことがよくあります。笑顔は私たちが幸せであることを表現するだけでなく、私たちの生活や周りを変えることができます。

何世紀にもわたり、人は笑顔や優しさが良い影響をもたらすことについては気づいています。困難が続く時代には、ちょっとした笑顔がより良い世界を作り出してくれます。

笑顔は私たちの体と心にもさまざまなプラスの効果をもたらします。健康や気持ち、さらには他人の感情さえも良くすることができます。私たちが笑うと、脳から強力なホルモンが分泌され、幸せが溢れることをご存知ですか？笑うという行為は、顔の筋肉を刺激して気分を高めることもできます。笑顔は、より考えを前向きにさせてくれます。ですので、困ったことがある時は、笑ってみてください。そうすれば、解決策を見つける自信が出てきます。笑顔は連鎖します。私たちが笑うと、他の人を笑顔にすることができ、周りの人々に幸せが広がるプラスの波及効果を生み出します。

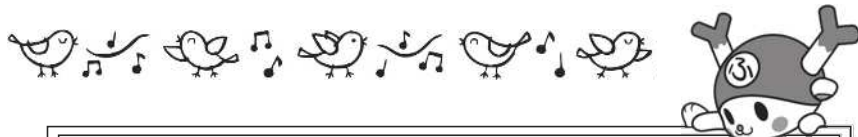
笑顔は世界共通のものでもあります。海外に行き、外国の方と交流したとき、お互いに理解できないこともあります。でも、笑顔でいれば、地元の人とも何らかの形でコミュニケーションをとることができます。最近、初めてネパールを訪れました。ネパール語が話せないのが少し心配でした。しかし、この国の美しい自然とネパールの人々の温かい笑顔が、私の不安を取り除いてくれました。ネパール語はほとんど話せませんが、滞在中には、笑顔の力、そして人と人とのつながる素晴らしい力を体験しました。

笑顔にはストレスをやわらげ、免疫力を高める効果があります。また、うつ病やがんなどの特定の病気のリスクも軽減します。私たちが笑うと、体は痛みを緩和するのに役立つ化学物質を生成します。笑顔は気分を良くし、不快感やいらだちを感じているときに役立ちます。ストレスを感じているときは、たとえそれが本心でなくても笑ってみてください。気分がずっと良くなります。

最も印象的な笑顔の力に気づかせてくれたのは、私の曾祖母です。曾祖母は102歳まで生きましたが、晩年はほとんどを寝たきりでした。耳が聞こえず、話すことも困難な状態でした。高齢で身体的に辛さがあるにもかかわらず、いつも大きな笑顔で私を迎えてくれました。彼女には、介護施設全体を明るくする素晴らしい力がありました。彼女のさりげない親切な行為は、笑顔が持つ魔法の力を証明してくれました。

笑顔と親切を分かち合うことで、私たちの世界をより良く、より魅力的な場所にすることができます。

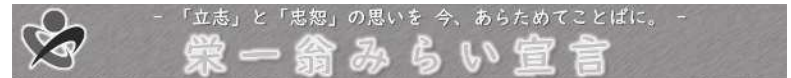
笑顔は、困難な時を乗り越える助けとなり、喜びを広げ、そして他の人とのつながる力があることを心に留めておいてください。毎日笑顔で過ごし、そしてこの素晴らしい贈り物をできるだけ多くの人と届け会いましょう。あなたも、今日、誰かを笑顔にしていましょう。



子どもの暗唱 ～言葉と心を声にのせて～

主催 深谷地方ユネスコ協会 深谷市教育委員会

No.	学校名 (人)	学 年	名 前	暗唱する作品
1	常盤小学校 (2)	3 3	やまざき さつき 山崎 皐 ましも さな 眞下 紗名	ないないづくし 夕日がせなかをおしてくる
2	藤沢小学校 (1)	2	ひるかわ ことな 蛭川 琴菜	象の鼻 こころ
3	常盤小学校 (1)	1	いけだ つばさ 池田 翼	だれが食べたのでしょうか けんかした山
4	常盤小学校 (1)	1	せきぐち ゆうこ 関口 結子	論語 わたしと小鳥とずっと
5	深谷西小学校 (2)	4 3	たけい るか 武井 瑠華 たけい りか 武井 璃華	夢七訓 そうだ村の村長さん



事業の目的

深谷市教育委員会では、平成24年度から、「立志と忠恕の深谷教育」のもと、「渋沢栄一翁のこころを受け継ぐ教育」を掲げ、目指すこども像「夢とこころざしをもち、まごころと思いやりのある深谷の子」の実現のため、教育委員会、学校、家庭・地域の三者が一体となって、さまざまな取組を進めています。

栄一翁の「立志（夢とこころざし）」と「忠恕（まごころと思いやり）」の精神は、これからの激動の社会を生きる人々の道しるべとなるものであります。令和6年7月3日の新一万円札発行を機に、栄一翁の精神にも一層注目が集まる中、立志と忠恕の精神をより多くの方に広げるとともに、多くの方の生き方の糧としていけるよう、自らの思いを綴る「栄一翁みらい宣言」を募集しました。

部 門

①小学生の部 ②中学生の部 ③高校生の部 ④一般の部

※各部門【立志】【忠恕】の2つのテーマから選択し、応募する

応募数

【小学生の部】	6, 478点
【中学生の部】	2, 899点
【高校生の部】	77点
【一般の部】	18点
合計	9, 472点



賞

各 部 門 テーマごとに最優秀賞 1点 優秀賞 2点

審査基準

- 作者の体験等、具体的な内容であるもの
- 立志や忠恕ということに対する捉え方がしっかりしているもの
立志：志を立て、それを成し遂げようと決心すること
忠恕：誠実さや他人への思いやり（転じて、周りから受けた心遣いへの感謝）
- 個人の内だけでなく、広く社会へ目を向けているもの

《 最優秀賞 小学生 立志の部 》

ぼくなり思いやり

明戸小学校 3年 小林 羽慊

ぼくは、思いやりのある人になりたいです。なぜなら、思いやりをもってせつしてくれる人のそばにいと心がポカポカになるからです。ぼくが、いじけて悪いことをしてしまった時、お父さんは、どんなにそがしそうな時でも、しかるだけでなく、ぼくの話をよく聞いてくれます。なぜそうなったのか、今どんな気持ちなのかいっしょに考えたり、聞いてくれたりしてぼくの気持ちをうけ止めてくれます。だから、話をするといつもさいごには心があたたかくなって、あん心します。ぼくも人をポカポカにできる存在になりたいです。

《 最優秀賞 小学生 忠恕の部 》

言葉の力

岡部西小学校 2年 金井 奏磨

ぼくは、かぞくやお友だちといっしょにいる時「言葉」に気がついています。

ぼくが何となく言った言葉が、ぼくの大切なだれかをきずつけてしまうこともあるからです。そして、言葉はめぐりめぐって自分にかえってくると聞きました。ぼくの言った言葉がだれかをえがおにして、そのえがおがどんどんひろがって、ぼくもいい気持ちになれたらいいなと思います。

だから、ぼくはぼくが言われたらうれしいなと思う言葉をえらんでいます。

ぼくの大切な人たちが、えがおとやさしい気持ちでいっぱいになりますように。

《 最優秀賞 中学生 立志の部 》

夢を追いかけること

上柴中学校 2年 荻原 ゆず希

私は今、なりたと思う夢がある。それは、空港のグランドスタッフだ。人生初の飛行機に乗ったあの日から、私は空港での仕事に憧れを抱くようになった。その中でも、ひときわ輝いて見えたのがグランドスタッフ。陸にいなからこれから旅立つ人を支える仕事は、私にとってとてもキラキラした仕事に見えた。その夢を叶えるために、これからたくさんの努力が必要だ。勉強したり、知識を身につけ、実際に働いたり。時に挫折することもあると思うが、その度に今までの努力が支えになる。努力を怠らず本気で向き合えば、いつか夢が叶うかもしれない。

《 最優秀賞 中学生 忠恕の部 》

先生 ありがとう

川本中学校 3年 石田 真結

「思いは叶う」この言葉を胸に私は3年間部活をがんばってきました。この言葉は部活の顧問の先生の言葉です。

陸上部に入部し、日々厳しい練習を仲間とこなし、大会で出た結果に一喜一憂してきました。そんな時いつもこの言葉が私の力になっていました。

自信の無い私を指導し、進む高校に悩んでいた私に道しるべを示してくださった先生。本当にありがとうございます。目標ができ、それに向かって進む道が見えてきました。まだ何にも恩返しができていませんが、「思いは叶う」の光を信じ、受験勉強をがんばります。

《 最優秀賞 高校生 立志の部 》

なりたい自分へ

東京成徳大学深谷高校 2年 黒田 倅世

私は渋谷栄一の生き方から主に二つのことを学びました。一つは現状を客観的に見る力、二つは失敗を恐れず挑戦する精神です。

私は勉強やスポーツなど一つのこと集中すると、周りを見失ってしまい、もっと大事なことをおろそかにしてしまいます。しかし栄一は、当時の日本に足りないものを正確に見極め必要なものを実際に会社を建てるなどして行動することで、人々の助けになっていました。私もこの生き方を見習い現状を正確に把握できる人、そして失敗を恐れず自信をもって行動できる人になれるように今後の人生を歩みたい。

《 最優秀賞 高校生 忠恕の部 》

当たり前に感謝

東京成徳大学深谷高校 2年 本多 蒼汰

現在高校二年生の私の周りには、当たり前のように当たり前ではないことがたくさんある。例えば、お腹いっぱい飯が食べられること、学べること、好きなことに没頭できること、平和であることなど。全て挙げたらキリが無い程の当たり前私たちは支えられている。

しかし、この当たり前が存在しない人や、突然奪われてしまう人がいる。今、自分が生きていて、自由に好きなことに没頭できる、こんなに幸せなことは無いと思う。なので、この幸せの輪をどこまでも広げていけるように全てのことに感謝し、他が為に生きていきたい。

《 最優秀賞 一般 立志の部 》

夢と希望を持つ

おおさわ こ
大奇 大沢 つる子

高齢化社会、人生100年時代に突入したと言われます。そんな私も、後期高齢者として、その輪の中で生きてます。が、人は幾つになっても、その年齢に応じて「夢と目標」を掲げ、希望持ち、何事も諦めないこと、それが大事だと思います。ひとり 々が、こんな気持、抱いて前に進めば、明るい社会、未来があるでしょう。こんな社会を作るのも、私たち高齢者に課せられた テーマかも知れません。偉人 渋沢栄一翁が 唱えた 立志（夢とところざし）を、私は、これからの自分が生きる術の指針に、健康寿命と言うレールの上をゆっくり歩む人生を。

《 最優秀賞 一般 忠恕の部 》

豊かな心をありがとう

こうの ひろみ
南 高野 寛美

私は夫の仕事の関係で、結婚後、23年程、神奈川で暮らした。その間、深谷で暮らす嫁ぎ先の父と母は、いつも自分達で育てたお米や季節のお野菜を、時には体調を崩した私に葉を送ってれた。また、幼少の頃から育ててくれた父と母は3人の子ども達をととても愛情深く育ててくれて、時間を作っては家族旅行だったりとみんなの時間を大切にしてくれた。夜遅くまで内職してくれた母、整体を営む父は、よく腹痛を起こす私を治療してくれた。どんな時も変わらない両家の父母達の温かい気持ちに支えられて、私の今がある。いつも支えて下さり、ありがとう。

《 優秀賞 小学生 立志の部 》

あきらめない

たけい ひさし
藤沢小学校 5年 武井 悠

ぼくがいつも大切にしていることは、「あきらめない」ことです。ぼくは、野球をやっています。その日はとてもつらくてやめてしまおうかと思いました。でも、ぼくの夢はプロ野球選手になることです。この前、ベルーナドームに行きました。プロの選手は体も大きくてパワーがみなぎっているように感じました。ふだん、つらい練習を乗り越えているから、あのようになれるのだと思います。だから、ぼくもつらいことや大変なことがあっても、あきらめずに続けていきたいです。

《 優秀賞 小学生 立志の部 》

自衛官への道

まるも ふみたろう
深谷西小学校 5年 丸茂 史太郎

ぼくは、自衛官になるゆめをもちました。なぜかという、2024年に能登半島地震が起こって、テレビで「自衛隊がきゅうじょ活動をしています。」と言っていて、「今もいのちがけでがんばっているのだな。こんな、人を助ける仕事につきたいな。」と思ったからです。まだまだ長い道のりだけど、がんばりたいと思いました。

自衛官と渋沢栄一翁は共通点があります。一つ目は、自分だけでなく、周りの人のこともよく考えるところです。二つ目は、自分にも人にも良いことをしたところです。

いろいろな知識を学び、ぼくはいどみます。自衛官への道を。

《 優秀賞 小学生 忠恕の部 》

やさしいじょうきゅうせい

しばの なおし
幡羅小学校 1年 柴野 直志

ぼくはしょうがっこうににゆうがくしたあと、ふあんできょうしつにいけないひがありました。あさこうものところでこまっていると、じょうきゅうせいがこえをかけてくれていっしょにつれていってくれました。そのじょうきゅうせいは、ぼくがこまっているといつもたすけてくれます。おかげでいまはちゃんとがっこうにいけるようになりました。こんどはぼくが、こまっているひとがいたときたすけてあげたいです。しぶさわえいいちおうのようにまごころとおもいやりのきもちをもって、まわりのひとをたいせつにしていきたいとおもいます。

《 優秀賞 小学生 忠恕の部 》

思いやり

たかの しまこ
花園小学校 3年 高野 志万子

わたしは、この間、お父さんがけん血をするので、いっしょにけん血センターにつれて行ってもらった。わたしは、小さいころ、心ぞうの手じゅつをしてゆ血と言って、だれかの血えきをわけてもらった。お父さんも今度は自分がとけん血をしている。

だれかの思いやりでわたしは、こうして元気に生きている。そしてお父さんの思いやりも、だれかを元気にしている。すごいことだと思った。わたしも、わたしを元気にしてくれた人や、お父さんの思いを引きついで、人を思いやる気持ちを大切に生きていきたい。

《 優秀賞 中学生 立志の部 》

私の将来の夢

南中学校 2年 ^{たけのや さくらこ} 竹ノ谷 咲花子

私には、JICAの医者になるという夢があります。
その夢を志した理由の一つ目は、姉が医者だからです。ネパールで医者として働いている姉のように素敵な女性になりたいと思いました。

二つ目は、昨年東京のJICA地球広場に行き、様々な経験をさせていただいたからです。その中で実際に海外で活動していた方の話を聞いたことが印象に残りました。話を聞きながら胸が高なっているのがわかりました。

今の私にできることは少ないですが、自分にできることを全力で取り組んでいきたいです。

《 優秀賞 中学生 立志の部 》

私の将来の夢

上柴中学校 2年 ^{つしま ゆうか} 津嶋 優花

私は将来、和裁士という職業に就きたいなと思います。なぜなら、小さい時に裁縫が得意なおばあちゃんと人形の着物を作った時にとっても楽しかったからです。しかし、和裁士について調べてみると、資格が必要だったり、専門学校に入ったりと色々大変であることを知りました。このことを知り、少し諦めようとも思いましたが、和裁士が年々減少していることも知ったため、もし和裁士という職業がなくなってしまうたら、和服がなくなってしまうかもしれないと思い、また目指すようになりました。和裁士になるためにも目の前のことから成しとげたいです。

《 優秀賞 中学生 忠恕の部 》

まごころを込めて行う清掃

岡部中学校 1年 ^{すぎた にこ} 杉田 仁香

私がまごころをこめて取り組んでいることは、清掃です。

理由は、学校でも家でもまごころをこめて行う清掃は、学校や家の清掃した場所だけでなく自分の心もキレイに磨かれ、気持ちがよいからです。道徳の時間に担任の先生が掃除を清掃というワードにかえ、清掃の時間は、自分と向き合う時間だと言っていました。それまでは、普通に行っていた掃除も自分と向き合いながら清掃を行っていたら、終わった後に、普通に取り組んでいた時までは、感じる事ができなかった気持ちを実感できました。これからもまごころをこめて清掃します。

《 優秀賞 中学生 忠恕の部 》

いつもは言えない気持ち

花園中学校 2年 ^{ひらの ゆずき} 平野 結月

中学生になって、素直に感謝を伝えることがはかしくなった。小学生のときは、もっと身近なことでも感謝の言葉を述べられていたのに、中学生になってそれができなくなった。特に家族に対してだ。いつもがんばっていることは分かっているのに、はかしくて言えない。きっと伝えれば、よろこんでくれるはずなのに、言えない。どうしてはかしく思うのか。それは今は分からない。分からないけれど、この紙になら書ける気がする。お母さん、お父さん、いつもありがとう。いつか目の前で言えたらいいな。

《 優秀賞 高校生 立志の部 》

私の夢について

東京成徳大学深谷高校 3年 ^{せでい あきみつ} 瀬出井 瑛咲

私は将来都市計画に携わるのが夢です。美しいデザインと機能性、自然との調和を兼ね備えた都市を設計することで、住む人々に快適さと喜びを提供するのが目標です。そのような職業に携わるためには、学問や実地経験をはじめとした様々な経験や努力を積む必要がありますが、その過程で得られる知識やスキルを自己成長の機会として大事にすると心をげたいと思っています。私にとってこの夢は自分の理想像を追求すると同時に、社会に貢献するための大きな挑戦です。今はその夢を実現するための第一歩として、日々勉強に取り組んでいます。

《 優秀賞 高校生 立志の部 》

将来の夢

東京成徳大学深谷高校 3年 ^{ふくしま} 福島 ころこ

私の将来の夢は、一人でも多くの赤字企業を救える税理士になることです。

私が税理士を目指そうと思ったきっかけは、私の両親が経営していた会社が新型コロナウイルスの影響により倒産寸前の時、税理士の方が経営を立て直し、回復に導いてくれたからです。その時、私は改めて、お金の大切さに気がつきました。またそれと同時に、私も経営危機の企業を少しでも救いたいと思いました。

もし、私が税理士なることができたなら、一人でも多くの人の生活を豊かにする手助けをし、社会に貢献していきたいです。

《 優秀賞 高校生 忠恕の部 》

家族との時間の大切さ

東京成徳大学深谷高校 1年 町田 美波

「もっと一緒にいた時間を大切に」私はそう後悔をしています。私は三月に父親を亡くしました。亡くなる前までは特に変なこともなくただ父親と過ごしていたあの時が今となってとても大切だと気づきました。なのでこれからは、自分のことをいつも支えてくれる家族に今まで伝えられていない感謝の気持ちを伝えるようにしていきたいです。時には、家族に対して反抗的な態度をとってしまうことや喧嘩をしてしまうこともあるけど、それでも家族を思う気持ちや一緒にいられる時間をこれからもっと大切にしていきたいです。

《 優秀賞 高校生 忠恕の部 》

ありがとう

東京成徳大学深谷高校 2年 橋本 朱音

私は人がとても好きです。そのため良く挨拶をし、明るく元気に生活をするようにしています。自分一人では生きていくことさえ難しい世の中で、家族、先生、地域の方、友人など自分の周りには様々な人が関わっています。その人たちのおかげとも言っていほど今の私は支えられて生きています。そんな方々には日々感謝しなければいけないと思いますし、大切に接していくことが重要です。共に生きていく仲間として、自分自身もまごころと思いやりの精神を大切にし、毎日人に感謝される人になれるよう努力していきたいと思っています。

《 優秀賞 一般 立志の部 》

キャリア=人生

花園 佐藤 愛里

「キャリアとは自分の人生である。」と大学時代、恩師が言った。その時は深く考えなかったが、就職し結婚、子育て中の今、この言葉を身に染みて感じている。

卒業後は大学で学んだことを生かし、今に至るまで働いている。その傍ら、食物アレルギー持ちの次女のために日々、食材限定レシピを考案している。また、子供たちの寝ている間に勉強し、独学で二つの国家資格を取得した。

「キャリア=人生」と考えた時、誰でも日々を大切に生きることがその人のキャリアである。私のキャリアが誰かの役に立てたら何よりの幸せである。

《 優秀賞 一般 立志の部 》

やると決めたらどこまでも

南 小林 直子

「青天を衝け」のドラマを契機に、栄一翁が生涯を通して大事にしたという論語を学びたいと思い、素読を始めた。七十歳を前にして茶道を習い始めた。私は※論語「子曰く、力足らざる者は中道にして廃す。今女は晝れり」という一章を素読した時、衝撃を受けた。

茶道は、ただお茶のお手前を覚えるだけではない。お茶は中国から伝わりそれを時代とともに日本独自の文化として育て上げたものである。その歴史を考えるとお茶の文化は奥が深い。

私は、衝撃を受けた論語を大事にし、美味しいお茶を差し上げる基本精神を胸に生涯茶道を志していきたい。

※雍也第6-12「途中で投げ出しはいけない」の意

《 優秀賞 一般 忠恕の部 》

未来へつなごう「思いやり」の心

web 山田 敬一

世はデジタル化の時代へ移行しつつある。タブレット、スマホそしてAIと技術の進歩は著しい。しかし、そんな装置を制作しているのは人であり、人が「人」である以上未来へ持ち続けなければならないものがある。その一つは渋沢栄一翁が唱えた忠恕の心だ。便利な装置に頼りすぎると会話や人を思う気持ちに欠けてくる。相手のことを思う、そんな「思いやり」の心を装置は持てず、それは人でしか持てない。便利な世ほど「思いやり」の心を忘れてはならないと思う。

《 優秀賞 一般 忠恕の部 》

父と母へ 幸せな娘より

市外 風間 麗子

私は、実家にて父と母と三人で暮らしている。平日は、仕事のため家には殆どいない。本来なら、私は毎日父と母の手伝いをするべきなのに、いつも私は、父と母から支えられて守られている。毎日が、慌ただしく過ぎていき、私は父と母と同じ家に住んでいるのに顔を合わせない日も多々ある。だから、この場を借りて私から父と母へ感謝の気持ちを伝えたい。

「父と母へ。こんなに大きくなった私と、いつまでも一緒に暮らしてくれて有難う。私は、父と母の娘に生まれて幸せ。これからは、私が父と母を支えて幸せにする。父と母と私の生活を大切にしたい。」

《 審査委員特別賞 》

努力から学んだ感しゃの気持ち

北海道清水町立清水小学校 4年 いしい さ 石井 えり紗

私は、五月にそろばん一級を合格しました。とてもうれしかったですが、合格するまでは、本当に大変でした。そろばんの先生は、非常にきびしいので、私は、そろばんをやめたいと思ったり泣いたりした事が何度もあります。でも、先生のおかげで、一級を合格する事ができました。先生は、きびしいですが思いやりもあるから、私に一生けん命指どうしてくれたのだと思います。

私は、そろばん一級を合格した事で計算が得意になっただけでなく、先生をはじめ色々な人に感しゃするという気持ちをもてるようになりました。



深谷市イメージキャラクター

ふっかちゃん

郷土の偉人

渋沢栄一

令和6年度 青少年健全育成のための

「3つの運動」標語コンクール

—作品紹介—

目的

深谷市子どもサポート市民会議では、青少年の健全育成のために、次のような3つの運動を推進しています。脱いだ靴をそろえよう、すすんであいさつをしよう、ことばを大切にしようという「3つの運動」は、青少年が夢をもち、他者を思いやりながら、けじめやコミュニケーションの重要性を意識しつつ、心豊かに生活できるようにという思いから、推進しているものです。

「3つの運動」標語コンクールは、この運動を再認識し、理解を深めてもらうために、市内小学校に在籍する4年生から6年生までの児童を対象に行っているものです。

対象者

市内小学校在籍の4年生から6年生

募集作品

「3つの運動」（脱いだ靴をそろえよう、すすんであいさつをしよう、ことばを大切にしよう）のうち、「ことばを大切にしよう」をテーマにした標語

応募数

2, 954点

賞

最優秀賞 1点、優秀賞 2点、優良賞 16点

※深谷市子どもサポート市民会議役員会にて、審査会を開催しました。



「3つの運動」標語コンクール受賞作品

最優秀賞

(順不同)

「ありがとう」 その一言で 笑顔咲く

幡羅小学校 6年 もり森 りん凜

優秀賞

ありがとう いわれるだけで ここ(心)なごむ

深谷西小学校 4年 つかはら塚原 かほ花歩

育てよう 笑顔が実る ことばの種

常盤小学校 5年 なかはら中原 ごゆき瑚雪

優良賞

その言葉 未来の君に 聴かせられる?

深谷小学校 6年 はらぐち原口 あんな杏夏

人の心に一度ささった「言葉の矢」は抜けない

桜ヶ丘小学校 5年 きょうや京谷 はづき葉月

一言の 言葉えらびを 慎重に

藤沢小学校 6年 あたらし新 りく璃空

ありがとう 言葉と気持ちで みな笑がお。

上柴東小学校 4年 ふじむら藤村 そうすけ颯佑

ことばって ゆうきをくれる ハッピーパワー

上柴西小学校 6年 さとう佐藤 りいな梨那

気づいてる? 言葉一つの 責任に

明戸小学校 6年 なかむら中村 うみ海

「3つの運動」標語コンクール受賞作品

ありがとう ごめんなさい すなおな気持ちのまほうの言葉

大寄小学校 5年 いまい今井 たいよう大陽

気をつけよう その一言で 未来が変わる

豊里小学校 6年 こうの河野 あいり愛利

伝えよう 心のおくの ありがとう

八基小学校 4年 ささき佐々木 ゆうな優奈

言葉には、笑顔を咲かせる 力あり

岡部小学校 4年 いぞべ磯部 はな花

意味あるの 相手をけなす その言葉

榛沢小学校 6年 たけまさ武政 ゆうじ勇吾

続けよう やさしい言葉を 大切に

本郷小学校 4年 かみお神尾 あみ愛海

その言葉 言う前一度 深呼吸

岡部西小学校 6年 よしおか吉岡 はやと勇翔

ありがとう 気持ちが伝わる リレーだね

川本北小学校 4年 かごしま籠島 まさと誠人

やさしい言葉 ひとことだけでも 心のささえ

川本南小学校 4年 よしだ吉田 きらら綺星

すてきだね あなたの言葉で 笑顔さく

花園小学校 6年 いいじま飯島 こはる小春

「家庭の日」ポスターコンクール

～家庭で話そう!わが家のルール・家族のきずな・命の大切さ～

—作品紹介—

目 的

深谷市子どもサポート市民会議では、親子や家族のふれあい、絆をテーマにしたポスターを募集し、広く展示することにより、より良い家庭環境づくりについて市民の自覚を高め、家庭や地域社会の持つ機能を再認識してもらい、青少年健全育成を推進する契機となると考えています。

この機会に家族のふれあいや絆について、親子や家族で話し合ってみては、いかがでしょうか。

対象者

市内小学校在籍の1年生から3年生

募集作品

- ・家族みんなで楽しく過ごしているところ
(例：食事、スポーツ、お出かけ、家事、お話など)
- ・家族のふれあい、いたわりあい、団らん等を題材として「家庭の日」の普及啓発に資するもの

応募数

614点

賞

最優秀賞 1点、優秀賞 2点、優良賞 16点

※深谷市子どもサポート市民会議役員会にて、審査会を開催しました。

「家庭の日」とは

埼玉県では、家族みんなが温かくふれあう日、明るい家庭づくりを考える日として、毎月第3日曜日を「家庭の日」としています。



「家庭の日」ポスターコンクール 受賞作品 (順不同)

最優秀賞



「海で家ぞくといっしょ」

深谷小学校 3年 井田 晴也

優秀賞 (2作品)



「みんなでちょうちょを見たよ」

桜ヶ丘小学校 3年 揖斐 桜子



「わたしのだいすきな家族」

幡羅小学校 3年 吉野 唯菜

「家庭の日」ポスターコンクール 受賞作品 (順不同)

優良賞 (16作品)



「家ぞくって楽しいな」
しらishi ももこ
藤沢小学校 3年 白石 桃子



「晴れの休日」
おぎの わたる
上柴東小学校 1年 荻野 亘



「大好きな家族と花火大会」
ちば ひまり
上柴西小学校 2年 千葉 陽葵



「オリンピックのおうえんをした楽しい夕しよ」
かわかみ らん
常盤小学校 2年 川上 藍



「三人で、サラダ作り」
いしかわ かれん
明戸小学校 2年 石川 佳蓮



「かぞくでゆうえんちに行ったよ」
ただ たかだ なな
大寄小学校 1年 高田 菜那

「家庭の日」ポスターコンクール 受賞作品



「みんなでゆったり」
むらおか みぞら
豊里小学校 3年 村岡 美空



「うみがたりとわたしの家ぞく」
もちづき
八基小学校 3年 望月 いろは



「家族との時間」
たけまさ はるが
榛沢小学校 3年 武政 春霞



「かぞくで虫とり うれしいな」
こばやし あらた
岡部西小学校 1年 小林 新



「海と夕やけきれいだな」
もりた りあん
川本北小学校 3年 森田 利杏



「みんな なかよし」
はら こうが
川本南小学校 1年 原 昊雅

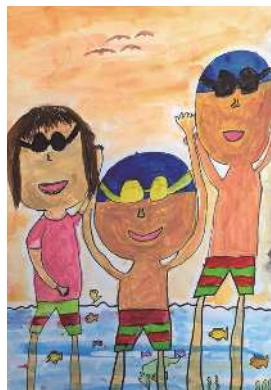
「家庭の日」ポスターコンクール 受賞作品



「かぞくで楽しいバーベキュー」
深谷西小学校 2年 かの まほ
菅野 麻穂



「海の思い出の一まい」
岡部小学校 3年 さかい れんと
酒井 煉斗



「楽しかった海」
本郷小学校 2年 ちだ けんた
千田 健太



「花火大会を家族でみたよ」
花園小学校 2年 のべ ゆうま
野邊 佑真



3つの
運動

深谷市
FUKAYA

FUKKACHAN

脱いだ靴をそろえよう
すすんであいさつをしよう
ことばを大切にしよう
深谷市子どもサポート市民会議

● 深谷市子どもサポート市民会議では、次の団体と協力して3つの運動を展開しています

○深谷地区青少年健全育成会 ○藤沢地区青少年健全育成会 ○幡羅地区青少年健全育成会 ○明戸地区青少年健全育成会 ○大寄地区青少年健全育成会
○八基地区青少年健全育成会 ○豊里地区青少年健全育成会 ○上柴地区青少年健全育成会 ○南地区青少年健全育成会 ○岡部地区青少年健全育成会
○川本地区青少年健全育成会 ○花園地区青少年健全育成会 ○深谷市子ども会育成連合会 ○深谷市青少年相談員協議会 ○ボーイスカウト深谷第1団
○ボーイスカウト深谷第2団 ○ガールスカウト埼玉第58団 ○深谷市スポーツ少年団 ○ふかや4Hクラブ ○深谷市幼稚園 PTA 連合会
○深谷市PTA連合会 ○高等学校PTA代表 ○深谷市民生委員・児童委員協議会 ○深谷地区保護司会 ○更生保護女性会
○深谷警察署少年非行防止ボランティア連絡会 ○寄居警察署少年非行防止ボランティア連絡会 ○深谷市手をつなぐ育成会 ○熊谷人権擁護委員協議会深谷部会
○深谷市自治会連合会 ○一般社団法人深谷青年会議所 ○深谷市スポーツ協会 ○深谷モラロジー事務所 ○交通指導員代表 ○深谷市交通安全母の会
○深谷ライオンズクラブ ○深谷ロータリークラブ ○深谷東ロータリークラブ ○深谷商工会議所 ○ふかや市商工会 ○深谷商店街連合会 ○深谷市老人クラブ連合会
○深谷市社会福祉協議会 ○深谷公民館 ○藤沢公民館 ○幡羅公民館 ○明戸公民館 ○大寄公民館 ○八基公民館 ○豊里公民館 ○上柴公民館
○南公民館 ○岡部公民館 ○川本公民館 ○花園公民館 ○深谷警察署生活安全課 ○寄居警察署生活安全課 ○深谷市民間保育協議会
○幼稚園代表 ○深谷市校長会 ○高等学校代表 ○深谷市薬剤師会 ○公益財団法人深谷市地域振興財団 ○深谷市スポーツ推進委員協議会 ○有識者
(順不同)